



大野まこと県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

救急医療センターの建替え急務

精神科医療との連携強調

印旛郡特集 6月県議会 一般質問



本会議場の壇上で質問する大野眞県議

印旛郡栄町から県政へ政治活動の場を飛躍させた大野眞(おおの・まこと)県議は、六月県議会の本会議場でも一般質問に登壇しました。これまでの豊富な行政経験と実績を生かし、その発言は次第に重みを増しています。今回は、救急患者の円滑な搬送を行うための救急コーデイネーター事業について質問し、森田知事は「東葛地域でもコーデイネーターを配置し、広域的に事業を開始した」と答弁しました。また、大野県議は、救急医療センターの早急な建替えを強く要望しました。大野県議の質疑を1、2面で特集します。

大野議員 救急医療センターの建替えに

関して、昨年十二月の私の質問に対し、県当局は、「現在の施設は、個室の不足や救急措置室の狭隘化など、診療機能面からも問題があることから、建替えを含めた抜本的な対策が必要」全県対応型救命救急センター、すなわち千葉県の救急医療の拠点として役割を担えるよう整備計画を早急に策定したい」などと答弁しています。

この間も、救急医療センターの役割はますます大きくなっている一方で、建物の老朽化が進行しており、早急な建替えが必要と考えるが、施設整備の現状と今後の見通しについて、どのように取り組んでいくのか。

森田知事 本県では、医師不足などにより、救急医療体制の維持が困難になっていることから、現在、救急患者の搬送が円滑に行われるよう医師等が搬送先病院との調整を行う、救急コーデイネーター事業に取り組んでいるところだ。

本年三月から、東葛飾地域については、千葉県救急医療センターにコーデイネーターを配置し、広域的な事業を開始したところだ。また、香取海浜地域や長生地域でも、地元

の医療機関等と協議を進めており、早急に救急コーデイネーター事業を開始できるような努め

を怠りません。

現在、新たな救急医療センターの建設に計画的に取り組んでいるところですが、具体的な施設整備計画を取りまとめるため、庁内の関係部局によるプロジェクトチームを発足させ、建替えに向けて積極的な取り組みを開始したところです。

用地選定は慎重に

大野議員 救急医療センターの整備に当たっては、精神科医療センターとの連携強化が必要と考えるが、特に建替え用地の検討はどうなっているのか。

病院局長 増加傾向にある自殺企図者等の精神的疾患と身体的疾患を合わせ持つ患者さんへの対応など、精神科医療と救急医療の連携は重要性を増しており、救急医療センターの建替え用地を考えるに当たっては、そのような観点から検討する必要があります。現在、建

設用地の選定を進めているところですが、できるだけ早く用地を決定したいと考えています。

精神科医療センターは、当初の候補地選定時にかなりの反対があったと聞いています。救急医療センターとの連携の中でも、用地等の問題については慎重に検討してもらいた

い。

大野まこと県議 PROFILE

略歴

- 昭和33年4月 印旛郡栄町生まれ
- 52年4月 千葉敬愛高校卒業
- 58年4月 専修大学法学部卒業
- 60年4月 四街道市役所採用
- 平成9年1月 栄町議会議員当選
- 12年4月 栄町長当選
- 19年4月 千葉県議会議員当選

現職

- 県議会 健康福祉常任委員会副委員長
- あり方検討委員会委員
- 千葉県 環境審議会委員
- 印旛健康福祉センター運営協議会委員
- 自民党県連 政務調査会審議委員
- 政務調査会空港対策特別委員会委員
- 青年局研修委員会副委員長
- 政策集団「夢の会」幹事長
- 行政書士

県政や印旛郡のご相談、ご意見を聞かせてください **大野まこと** 事務所 〒270-1516 印旛郡栄町安食2357-82 TEL0476-95-1391 FAX0476-95-6064

特別支援学校の過密化対策求め

職業的自立目指し取り組み

大野議員 障害のある幼児・児童生徒の自立に向けた特別支援学校では、ゆとりある教育環境の中で、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな対応が必要であり、今後一層、教育環境の整備、卒業後の就職に向けた取り組みを充実させるべきだと思います。特別支援学校の過密化の解消と職業的自立を図るための取り組みは、近年、高等部生徒の増加が進み、この過密化の解消と卒業後の就労に向けた教育の充実が課題になっており、県教委では「千葉県特別支援教育推進基本計画」に基づき、分校等の設置を進めているところです。

施設整備費を大幅に増額

大野議員 特別支援学校の施設・設備については、平成十九年度から二十年度にかけて、児童生徒の増加対策として、つくし特別支援学校の増築や柏特別支援学校の分校の設置を行うとともに、普通教室への空調設置や特別教室等の普通教室への改修などを含め、総額十七億三千万円で実施してきました。さらに、今回の補正予算案は、分校の整備やすべての普通教室への冷房装置の設置、多目的トイレを整備し、バリアフリー化等を進めるための費用を含め、総額十一億五千五百万円を計上したところです。平成二十一年度は当初予算と合わせ、十五億五千三百万円の事業を実施することになります。



再質問に立つ大野県議

大野議員 特別支援学校の施設・設備については、平成十九年度から二十年度にかけて、児童生徒の増加対策として、つくし特別支援学校の増築や柏特別支援学校の分校の設置を行うとともに、普通教室への空調設置や特別教室等の普通教室への改修などを含め、総額十七億三千万円で実施してきました。さらに、今回の補正予算案は、分校の整備やすべての普通教室への冷房装置の設置、多目的トイレを整備し、バリアフリー化等を進めるための費用を含め、総額十一億五千五百万円を計上したところです。平成二十一年度は当初予算と合わせ、十五億五千三百万円の事業を実施することになります。

ハツ場ダム、コスト縮減へ努力

水源確保対策

大野議員 将来の水不足等が指摘されている印旛地域としては、できる限り早期に安定水源を確保しなければなりません。そこで、ハツ場ダム、霞ヶ浦導水の早期完成に向けた県の取り組み状況はどうか。

印旛沼高度利用

大野議員 未確定の印旛沼高度利用の安定化に向け、県はどのように取り組んでいるのか。

総合企画部長

ハツ場ダム及び霞ヶ浦導水については現在、事業主体である国が鋭意、事業を進めており、平成二十年度末での進捗率は、事業費ベースでハツ場ダムが約70%、霞ヶ浦導水が約76%となっています。

県では、これまで関係部と連携しながら、国と共同で設置した「コスト管理等に関する連絡協議会」等を通じて事業の工程管理やコスト縮減状況の検証などを行ってきたところです。

県としては、ハツ場ダム及び霞ヶ浦導水は印旛地域の水道の安定供給を図る上で重要な施設であることか

大野議員 水道水源の確保が困難な場合に設置する井戸について、千葉県環境保全条例における許可の基準はどのようになっているのか。

環境生活部長

県では、地盤沈下を防止するため、条例により地下水の取水を規制していますが、水道事業については、条例の施行以前から採取している井戸や、地下水に代えて他の水源を確保することが著しく困難であると認めるときに限り、地下水の取水を認めています。

大野議員 条例に基づき許可されている井戸が、老朽化による揚水量の減少や井戸の破損が生じた場合は新規に許可すべきではないか。

環境生活部長 条例ではこれらの井戸が、老朽化や何らかの原因で破損した場合、新たな井戸の設置を例外的に認めています。なお、これらの井戸は、他に水源が確保された時点で、使用は認められなくなります。

北総線で森田知事が答弁

自民党の代表質問で、北総線の運賃値下げ問題の現状を質問された森田健作知事は、「県として運賃値下げの考え方をまとめ、沿線市村と一体となって国や鉄道事業者に対して要請を行う」との考え方を示しました。

森田知事は、このほか

運賃問題では担当者クラスとの七回にわたる勉強会に加え、県の部長と副市長クラスの会議を本年一月に開催し、運賃値下げにかかわる支援の是非等について協議することにも、さる四月二十四日も具体策の協議を行ったことを明らかにしました。

印旛郡特集
6月県議会 一般質問
おのおの
大野まこと
真
経験と実績を県政に
大野の
県議